

発表内容の概要

今回のワークショップでは、新しい施設ができるまでのロードマップを考えよう！をテーマに皆さんに考えていただきました。今回は発表いただいた内容を一部抜粋してご紹介をさせていただきます。

もみじグループ

【開館前】

- **市民がつくるアクション**

→「市民が参加している」ことを大事にした取組として、定期的なワークショップの開催や検討・工事の状況を発信するトキメキとめレターの作成を行って、新しい施設のPRしつつ自分達がつけていることを発信する。

- **無くなる施設へのアクション**

→今までお世話になった施設に感謝するイベント(公民館全部を使った鬼ごっこ、屋上から紙飛行機飛など)や、これまでコミュニティで行ってきたお祭りの映像や写真鑑賞会の開催。

- 遠い地区に住んでいる人でも施設に通うことができるように、交通手段は事前に整備が必要になる。
- 面白い、ワクワクするアクションとして、市長や議長の椅子をプレゼントする。

【開館後】

- NPO や健康づくり、農業など色々な分野のサポートや支援を行う。
- 来た人に楽しんでもらえる「体験・交流」として、無料カフェや料理教室、ダンス練習、お茶っこ飲み会といった機械に施設を使って、世代間を問わずに楽しめるようなアクションを起こしていけたらよい。
- 自分の団体で、交流とにぎわいを作りたい！

コスモスグループ

【開館前】

- 建設中の見学会を行って、建物が作られていくのを市ホームページやSNS、インターネットが見られない人向けに紙媒体でも、情報発信をしていく。
- 百聞は一見に如かず、ワークショップのメンバーで他の自治体の施設や事例を見学して話を聞いてみる。
- 施設や活動をサポートする団体の立ち上げを行う。
- 9町のイベントや伝統芸能で人が少なくなって困っている話を聞くので、これからもイベントや伝統芸能を継承できるように、活動をフォローする組織がNPOなどでできればとよい。

【開館後】

- 施設管理の主体はNPOが行って、市とうまく連携を取れるように市職員もNPO法人側に常駐する。
- こけら落としのイベントを大々的に行う。
- おかえりモネの清原果耶さんに毎年来てもらう。
- 地域の特性を逆手にとって、道路が冠水したらボート大会を開催するなど真逆の発想でイベントを考える。

りんどうグループ

【開館前】

- 民間団体で施設を運営するために、今から団体を立ち上げて行政と市民で考えていく。これからは担っていく若い人が、気軽に集まれる雰囲気を作ってほしい。
- 20代の若者や子どもたちの心を動かせるように、しっかり話し合いを行う。
- 解体する前の建物を使って、サバイバルゲーム大会や写真、映画の撮影を行う。
- 市民の意見を取り入れるように、ワークショップを継続して実施する。
- 建物の廃材を使って子どもたちはプランターを作ったり、大人は墓石探しのイベントを行う。

【開館後】

- 施設をとりあえず利用してみる。
- 子どもの第3の居場所になるように、思いのある民間が管理する。
- 地域をつくるには、人材育成が必要になるためその場所に施設がなる。
- エリア全体で佐沼の夏祭りができる場所であって欲しい。立体駐車場を作って一番上で花火を見たり、雨の日は1階でイベントができたらよい。